

## Manual ■ バッハによるカノン

この曲は、ヨハン・セバスチャン・バッハによって作曲されたとされるカノンです。5音から成る音階でできた、短く分かりやすいメロディーによるカノンですが、この単純な課題の中に、コーラスの技能を育てるとても大切な要素が詰まっています。発声練習としても、コーラスの響きを作る練習としても、大変有効な曲です。授業の最初の5分を使って練習するなど、短い時間で継続して扱ってください。また歌うときは、「マ」や「ラ」など自由に工夫して歌いましょう。

### Step 1

まずは全員で練習する

#### 【ユニゾン】

- ・音が上行するときは、音程が下がりがちになるので明るく、積極的に。
- ・音が下行するときも、音程が下がりがちになるので慎重に。
- ・2つ目や4つ目の八分音符の音は短くなりがちなので、丁寧に、長さを意識して歌う。

☞ユニゾン：全員で同じメロディーを歌うこと（斉唱）

### Step 2

2つに分かれて歌う

#### 【2声カノン】

- ・2つ目や4つ目の八分音符の音は、音程が不安定になる傾向があるので注意する。たいていの場合、常に鳴っているドミソの響きの圧力によって、音は下がりがちになる。
- ・パート同士が同じピッチで歌い合えるように、お互いのパートをよく聴く。
- ・後から加わるパートは前のパートのピッチをよく聴いて、その響きに加わる。従って、始めに歌いだすパートは、正確なピッチで歌い始めないといけないのでとても重要。
- ・テンポがずれないように意識する。

☞カノン：同じメロディーをずらして歌うこと（輪唱）

☞ピッチ：音高（音の高さ）

### Step 3

3つに分かれて歌う

#### 【3声カノン】

- ・**Step 1、2**の注意事項と同じ。

### Step 4

4つに分かれて歌う

#### 【4声カノン】

- ・**Step 1、2**の注意事項と同じ。

★半音ずつ音を上げて練習しましょう

★うまくいかないときは、ユニゾンに戻って練習しましょう

## 《LEVEL UP》

- 指名された一人が最初に歌いだし、他の人は各自好きなタイミングでハーモニーに加わる。

⇒この方法で、お互いの声を聴き、ハーモニーの中での自分の声を意識することができるようになります。

# バッハによるカノン

J.S.Bach



この楽譜は下記の楽譜（カルドシュ・パール著『合唱の育成・合唱の響き』p.92）より今回の課題レベルにあわせて、一部分を抜粋しました。

下記の課題については、今後も教材として継続して扱っていく予定です。



## 音楽用語

- ユニゾン： 同度の音、あるいは同度の旋律を1声部あるいは数声部と一緒に演奏すること。しかし、女声と男声のように実音がオクターヴ離れているような場合にもいう。合唱の練習ではこの同度の練習は基礎的に大切である。より正確な同度の音高を必要とするのはもちろん、各音の音色の統一がなければ、人声の美しい和声は得られない。
  
- カノン： 厳格な模倣様式による多声楽曲の形式および技法。ある1声部の旋律を他の声部が忠実に模倣し、共に進行していくもの。2声カノン、3声カノンや2重カノン、同度カノン、2度カノン…など、声部の数や音程関係など様々な見地から分類されている。
  
- ピッチ： 音高（音の高さ）
  
- 順次進行： ある音が音階の隣りあった音、すなわち2度上または下へ進行すること。これに対して、ある音が3度以上離れた音に進むことを跳躍進行という。
  
- オスティナート： ある一定の音型を、楽曲全体を通じて、あるいはまとまった楽節全体を通じて、同一声部で、同一音高で、たえずくり返すことをいう。オスティナートは、しばしばバスにあらわれ、それはとくに〈basso ostinato〉〈ground〉と呼ばれる。しかし他の声部に現れることもある。
  
- テクスチュア： 旋律と和声の作曲上の特徴をいう。一般に、ホモフォニーでは、旋律と和声進行を担う伴奏部とが明瞭に区別される。ポリフォニックな書法においてはいくつかの声部が独立して、あるいは互いに模倣しながら動く。このような音楽構造上の特徴をおおまかに言い表すもので、例えば声部数によって決定される響きの「厚み」、ユニゾンやオクターヴでの重複のしかた、演奏に内在する力感の「軽さ」や「重さ」、などが問題となる。

### [出典]

- ・目黒惇編（1983）『新訂合唱事典』 音楽之友社。
- ・浅香淳編（1991）『新訂標準音楽辞典』 音楽之友社。
- ・柴田南雄、遠山一行総監修（1996）『ニューグローブ世界音楽大事典』 講談社。
- ・小西友七、南出康世編集主幹（2006）『ジーニアス英和辞典』第4版 大修館書店

## 参考文献

- ・フォライ・カタリン、セーニ・エルジェーベト共著（1975）『コダーイ・システムとは何か』  
羽仁協子, 谷本一之, 中川弘一郎共訳, 全音楽譜出版社。
- ・カルドシュ・パール（1994）『合唱の育成・合唱の響き』  
羽仁協子監修, 菅原恵利訳, 全音楽譜出版社。